

社会資本総合整備計画 事後評価書

作成日：平成28年5月20日

計画の名称	生きがいと魅力ある住みよい都市姫路（防災・安全）															
計画の期間	平成23年度～平成27年度（5年間）	交付対象	姫路市													
計画の目標	東日本大震災を教訓として、「安全・安心で快適な都市づくり」の観点から、東南海・南海地震等の大規模地震へ対応するため、都市の防災機能の向上を図り、自然豊かで快適な環境・利便都市の実現を目指す。															
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市内において、防災マップの策定や防災訓練を行うなど、自主防災組織を中心とした防災・減災対策の検討を行う。 ・網干地区における津波による想定浸水区域内の避難者を地域防災拠点【避難所】（網干支所）が収容できる区域を324haから450haに増加（網干地区浸水予想区域面積600ha） ・姫路市内の大規模盛土造成地の抽出調査を実施し、マップを作成する。 ・姫路駅前における防災訓練参加者数1,000人を目指す。 															
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値		備考										
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)													
① 防災マップの策定や防災訓練の実施により、姫路市内の自主防災組織による活動件数を20%向上させる。	711件	800件	860件													
② 津波発生時に想定されている浸水区域内の避難者を地域防災拠点【避難所】（網干支所）が収容できる区域を測定する。	324 ha	324 ha	450 ha													
③ 大規模盛土造成地マップを作成し、2次スクリーニングに向けた検討を行い、姫路市全域（53,444ha）に対するマップ作成区域の割合を測定する。	0%	80%	100%													
④ 姫路駅前における年間の防災訓練参加者数を測定する。	0人/年	100人/年	1000人/年													
全体事業費	合計 (A+B+C)	162 百万円	A	133 百万円	B	0 百万円	C	29 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	17.9%						
事後評価（中間評価）																
◎事後評価の実施体制、実施時期																
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期											
姫路市において、目標の達成状況と指標の達成状況を確認。					平成28年5月											
					公表の方法											
					姫路市ホームページにて公表											
1. 交付対象事業の進捗状況																
交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
A-1	防災	一般	姫路市	直接	姫路市	宅地耐震化推進事業	大規模盛土造成地の抽出調査（53,444ha）	姫路市	H23	H24	H25	H26	H27	19		
A-2	防災	一般	姫路市	直接	姫路市	姫路市都市防災総合推進事業	防災まちづくり拠点施設整備（1,19ha）	姫路市						89	別添1	
A-3	防災	一般	姫路市	直接	姫路市	姫路市都市防災総合推進事業	防災マップ作成（61地区）・防災マップ作成等	姫路市						25	別添1	
合計													133			
B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
合計																
番号	一体的に実施することにより期待される効果															
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
C-2	防災	一般	姫路市	直接	姫路市	-	避難路等改善事業	浸水検知システム整備（4箇所）	姫路市	H23	H24	H25	H26	H27	27	
C-3	防災	一般	姫路市	直接	姫路市	-	防災活動支援事業	エレベーター設置	姫路市						2	
合計													29			
番号	一体的に実施することにより期待される効果															
C-2	姫路市都市防災総合推進事業（A-2）と一体的に実施することにより、災害発生時の避難路等の安全確保を行い、地域防災力の向上を図る。															
C-3	姫路市都市防災総合推進事業（A-2）と一体的に実施することで、災害発生時における防災活動用資材の搬出入に活用することにより、地域防災力の向上を図る。															

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災マップ等を作成したことにより、市民等の防災意識が向上された。 ・網干地区における津波による想定浸水区域内の避難者の収容可能区域が増加した。 ・被災時における姫路駅周辺の帰宅困難者に対する円滑な避難活動体制の確立を図った。
--------------------------------	---

II 定量的指標の達成状況	指標①（姫路市内における自主防災組織を中心とした防災・減災対策の検討を行う。）	最終目標値	860件	目標値と実績値に差が出た要因	各自主防災会とも毎年の訓練を実施するよう努めていたが、目標を達成することができなかった。しかし訓練に参加する人数に関しては、当初に比べ増加している（平成22年度 16,809人 平成27年度 19,926人）。また、自主防災組織の結成率は100%となった。引き続き、防災意識の向上を図るため、自主防災会への訓練実施を呼びかけていく。
		最終実績値	458件		
	指標②（津波による想定浸水区域内の避難者が収容できる区域）	最終目標値	450ha	目標値と実績値に差が出た要因	要素事業において、用地取得の難航等により、当初計画で想定していた事業が完了出来なかったが、引き続き、津波による想定浸水区域内の避難者の収容可能区域の確保に努める。
		最終実績値	324ha		
	指標③（姫路市域に対するマップ作成区域の割合）	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	100%		
	指標④（姫路駅前における年間の防災訓練参加者数）	最終目標値	1,000人/年	目標値と実績値に差が出た要因	姫路駅前においては、防災意識の向上と活動体制の確立を図るため姫路駅周辺に立地する企業等による地区防災組織の立ち上げの支援を模索している状況であり、防災訓練へのさらなる参加を呼び掛けていく。
		最終実績値	381人/年		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）	
--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

東南海・南海地震等の大規模地震に備え、引き続き、防災機能の強化や安全な避難場所の確保と防災拠点利用が可能となるよう施設整備を推進するとともに、姫路駅周辺の民間施設整備の進捗を見据えながら、地区防災組織の体制づくり支援に向けた方策を検討し、防災意識の向上を図る。

(参考図面)

計画の名称	1 生きがいと魅力ある住みよい都市姫路（防災・安全）	交付対象	姫路市
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）		

姫路市 整備計画図

